

電子複写不可

一
復
史
料

沖繩作戰に於ける
第二十二軍史實資料(一)

防衛研修所
戦史室



C
2440-2

沖台
沖繩
159

5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

四

新刊

之極其精

第三十二軍史實資料(一)

(一五八)

沖繩作戰於九第三十二軍史實資料

昭和二十二年三月二十五日
第三十二軍殘務整理部

目次

第一軍、基本的任務

第二作戰準備

第一期(航空作戰準備)

第二期(捷号作戰準備)

第三期(天号作戰準備)

第三戰鬥經過、概要

A. 軍主力方面、戰鬥

其一、上陸準備砲爆擊

其二、前進部隊、戰鬥

其三、敵、本格的攻敵手開始迄、戰鬥

其四、敵、本格的攻敵手、軍攻勢迄、戰鬥

(自三月二十二日
至三月三十一日)

(自四月一日
至四月五日)

(自四月六日
至四月十八日)

(自四月十九日
至五月五日)

其五 軍攻勢中止より首里戦線撤退迄 戦斗 (自五月六日 至五月十八日)

其六 第一軍喜屋武半島地区へ退却 (自五月十九日 至六月四日)

其七 喜屋武半島地区へ戦斗 (自六月五日 至六月十五日)

B. 國頭支隊へ戦斗

C. 慶良間方面へ戦斗

D. 海上戦斗

E. 沖繩周辺に於ける我が航空部隊へ戦斗

第四 組織的戦斗終結後より終戦前後に於ける状況

第五 觀察

別紙第一 第十方面軍司令官 第三軍司令官 授与感状

別紙第二 戦斗開始時に於ける沖繩本島部隊一覽表

別紙第三 戦斗開始時に於ける在沖繩島第三軍主力へ軍隊区分

別紙第四 戦斗開始時に於ける沖繩本島外第三軍諸部隊へ展開

一覽表

別紙第五 戦斗開始時に於ける軍司令部首脳部一覽表

別紙要圖第一 (機号作戦に於ける)

其一 第三軍団部署要圖

其二 敵が糸満正面に上陸せる場合へ攻襲指導要領

其三 敵が喜屋武海岸に上陸せる場合へ攻襲指導要領

其四 独立混成第四十四旅団へ防衛配備要圖

別紙要圖第二 第三軍兵団部署要圖 (自昭和一九二二上旬 至今二〇一月中旬)

別紙要圖第三 第三軍兵団部署要圖 (昭和二十一年中旬以降)

別紙要圖第四 第三軍作戰經過概見圖
別紙要圖第五 第三軍攻密移轉經過(計畫)要圖
別紙要圖第六 喜屋武半島地区第三軍主力防禦配備要圖
別紙要圖第七 國頭支隊及慶良間方面戰鬥經過概見圖

第一軍基本的任務

海空軍ト協同シ北緯十八度十分ヨリ東經百一十度五分ヨリ南西諸島ヲ防衛スルニ在リ

第二作戰準備

軍作戰準備ハ昭和十九年四月一日軍統帥權ノ發動以來昭和二十年下旬戰鬥開始迄ノ滿一年間ニ於テ太平洋作戰ノ進展ニ伴ヒ其規模内容屢々飛躍的ニ更改セラレタリ今之ヲ概觀スルニ軍統帥發動後ヨリ「ソヤ」線ノ崩壞ハ昭和十九年七月上旬迄ヲ作戰準備第一期爾後今年十月中旬ニ至ル捷号作戰準備期ヲ作戰準備第二期更ニ戰鬥開始ニ至ル天号作戰準備期間ヲ作戰準備第三期ニ大別シ得ヘシ以下右ニ分ニ從ヒ軍作戰準備概要ヲ述ベス

第一期(航空作戰準備)

本期間ハ所謂鉄壁陣地線ト稱セラレタル「ソヤ」線ヲ主陣地帶トシ我々南西諸

島嶼ハ後方陣地帯の作戰任務ヲ有シ此時期ニテハ戰準備ノ方針ハ航空作
戰準備ヲ主トシ地上作戰準備ヲ從トシ且全般ヲ通シテ我カ南西諸島作
戰準備ニ對テ大本營ノ熱意努力ハ次第的ニテ頗ル低調的ナリ
一航空作戰準備

軍カ任務ニ基キ計畫實施セル航空作戰準備ノ概要左ノ如シ
徳之島

第一飛行場

第一飛行場ハ昭和十八年末以來航空本部カ既ニ設定ニ着手シアリシガ
軍カ作業ヲ繼續セリ作業擔任部隊トシテ飛行場勤務中隊一ヲ充當セリ
第二飛行場ハ軍ニ偵察ニ止メ第一飛行場ノ概成後着手スル予定ナリ

伊江島

東中西飛行場

沖繩本島

北中南東飛行場

宮古島

東中西飛行場

伊江島中 沖繩北西飛行場ハ昭和十八年末以來航空本部
カ既ニ設定ニ着手シアリシガ軍カ作業ヲ繼承セリ
作業擔任部隊トシテ第十九航空地区司令部飛行場勤務
大隊二、一中隊一ヲ充當セリ

先ハ西中西飛行場ノ設定ヲ開始シ其ノ進捗俾テ東飛行場ノ設定ニ着手
ス予テ亦、作業擔任部隊トシテ飛行場勤務大隊一、一中隊一ヲ充當ス

石垣島

石垣島飛行場

作業擔任部隊トシテ飛行場設定隊(二)一ヲ充當ス

以上各飛行場ハ大本營命令基キ昭和十九年七八月迄概成スル予定ナリモ
飛行場設置ニ任セラレタル前記諸部隊ハ殆全部設置専門部隊ナリ
然モ是等部隊到着展開ハ五月以後ナリト一部海設セ等事情因リ軍
官民(一)平均約五万ノ島民ヲ使役セリノ如ク力ニ拘ハズ一般ノ作業ハ
必シモ平期ノ如ク進捗セザリキ
二地上作戦準備

軍隷下地上作戦兵力劣弱ニテ軍敵小艦艇ノ奇襲攻撃ニ対シ飛行場
港灣等ヲ直接警備シ得ルニ過ズ其展開部署ノ概要尤ノ如シ
大東島地区

大東島支隊(歩兵約一聯隊)
四月下旬主力ヲ以テ南大東島各一部ヲ以テ北沖大島^東ニ展開ス

奄美群島地区

奄美守備隊(独立混成第一隊・重砲兵第六聯隊(奄美大島重砲兵聯隊
ヲ改稱ス)基幹)
五月下旬主力ヲ以テ徳之島各一部ヲ以テ喜界島奄美大島沖永良部及
與論島ニ展開ス

沖繩本島地区

独立混成第四旅団(重砲兵第七聯隊(中城灣要塞重砲兵聯隊ヲ改稱ス)基幹
主力ヲ以テ島尻地区一部ヲ以テ伊江島及本部半島地区ニ展開シ予定ナリモ混成
旅団殆全部ハ六月下旬古仁屋沖ニ海設シ七月中旬ニ北進沖繩本島地区
ニ重砲兵第七聯隊飛行場設置團衛部隊等ヲ有スルミナリ
先島群島地区
独立混成第四十五旅団(重砲兵第八聯隊(船浮要塞重砲兵聯隊ヲ改稱ス)

基幹主力ヲ以テ宮古島各一部ヲ以テ石垣及西表ノ西島ニ夫々展開スルヲ定
ナリモ独立混成第甲五旅団モ亦独立混成第甲四旅団ト共ニ海没シ七月中旬
ニ至ル先島群島地区ニ於テ地上戦斗兵力ハ皆無ニ近キ状態ニ在リ

三、其他作戰準備

航空資材揚陸並ニ將來大兵団ノ上陸ニ場合ヲ顧慮シ徳三島伊江島
沖繩本島宮古島及石垣島ノ諸港湾並ニ部々道路ノ新設修補ヲ實施セリ
四、第期作戰準備間ニ於ケル一般ノ狀況並ニ敵情判断

一、隸屬系統ノ変更

第三軍ハ当初大本營ノ直轄軍ナリモ昭和十九年五月上旬西部
軍司令官ノ隸下ニ入リ更ニ七月中旬台湾軍司令官(第十方面軍ト
改稱ス)ノ隸下ニ入リ大本營ノ直轄ヲ離レハ大本營ノ指揮統率
ヲ簡易ニスル爲メ西部軍司令官ノ隸下ニ入リハ從來南西諸島ハ西
部軍ノ防衛擔任地域ナリト補給關係ノ爲メ又台湾軍ノ隷屬セラルルハ

作戰軍タルノ性格ニ致シ必要トシ且補給關係ハ西部軍ノ隸下ニ入ルヨリ
台湾軍ノ隸下ニ在ルヲ便スル爲メナリト云フ第三軍司令官トキハ純作戰上ノ
見地ヨリハ勿論補給系統ノ調節ヲ簡易ニスル爲メ終始大本營直轄軍
タルヲ希望セルモ遂ニ實現ノ運びニ至ラザリヤ

二、敵情

南西諸島近海ニ於ケル敵潜水艦ニ因ル我が船舶ノ被害ハ甚大ナリ且未
ダ敵機未熟ヲ受ケズ第三軍南西諸島ノ一般ノ狀況ハ平靜ニシテ
僅ニ久米島南大東島及沖大島^東ヤカ敵潜水艦ノ威嚇砲撃ヲ受ケルニ過キス

三、敵情判断

軍心花ノ如ク敵ノ進攻ヲ判断セリ然シテ其ノ公算大ナルハ(一)場合ニシテ
其ノ時機ハ遠キ將來(明ニ本年春季以降)ト考慮シテ老(四)公算又

絶無トハ断シ難ク此際ニ於テ其ノ進攻時機ハ今年春夏秋候ナルヘク
然ルトキハ殆無防備ニ近キ南西諸島ハ一舉ニ易ク奪テ入ルノ危険ア
ルヲ鑑ミ急速ニ兵力ヲ増強シ万ニ備ヘシクテラ希望セシセリ
増強急ヲ要シ且之ヲ保持ノ確信セラサル當時ノ状況ニ於テ尚問題トナリキ
イ、マリアナ線ト同時ニ從深突破ス
ロ、マリアナ線奪取後十分準備ヲ整ヘタル後所謂ニ級攻東武ニ南西

諸島ヲ攻東ニ来ス

ハ依然島嶼ヲ戦法ヲ採用シテ比島台湾ヲ攻東其ノ中ヲ有略ニ南
西諸島ヲ攻東ス
以上何ノ攻勢ノ圖セズ敵リ大東島ノ如キ小離島ニ是場ヲ求ルニテラ一舉
ニ南西諸島中大規模地ヲ占ムルハ直接攻略スルニ有利トス
特ニ(4)位ニ一部ノ有略戦法ヲ採ルハ場合ニ於テ然リ

第二期 (捷号ヲ作戦準備)

一、不落ト信セラシマリアナ線ハ六月下旬以降崩壊シ始ムルヤ大本營ハ急遽南西
諸島台湾比島等ノ増強ヲ開始セリ就中殆無防備状態態ニ在リ我ガ南
西諸島ノ強化ニ狂奔シ且之ヲ優先トセルモノ如シ
斯クテ七月中旬獨立混成第十五聯隊ヲ沖縄ニ空輸セシテ始メテ戦
艦大和武蔵以下ノ海軍艦艇ヲ動員シテ九カ月十カ月ニ師団ヲ
沖縄ニ步兵八師団(歩兵五千六百聯隊數)獨立混成歩四十五カ月五十九
カ月十旅団ヲ宮古石垣ニ獨立混成カ月十四旅団ヲ徳之島ニ步兵
カ月十六聯隊ヲ大東島ニ夫々輸送展開セリ是等兵團ハ大部ハ七八月
ノ間ニ其ノ一部ハ九月末頃迄ニ夫々無事大在營ノ計画決定セシ右
島嶼ニ展開ヲ了セリ其ノ概要大ニ如シ

奄美守備隊

独立混成第六十四旅團長高田少將ヲ長トシ北緯平(度十分三)与福島
巨尾奄美群島ヲ作戰地域トシ守備兵力独立混成第六十四旅團(独立根
隊)ヲ主(第六十二聯隊)重砲兵隊一隊(中隊)水上勤務一中隊
ヲ基幹トシ兵力配置ノ概要ヲ如シ

喜界島 独立混成第六十二聯隊一大隊

奄美大島 重砲兵隊一聯隊(主力)特設警備隊(中隊)

沖永良部島

独立混成第六十二聯隊一大隊(一中隊)

与論島

徳之島

奄美守備隊(主力)

大東島守備隊

歩兵第六十二聯隊長ヲ長トシ南北沖大東島ヲ作戰地域トシ守備兵
力八歩兵第六十二聯隊大東島支隊独立速射砲一中隊特設警
備一中隊ヲ基幹トシ兵力配置ノ概要ヲ如シ

北大東島

歩兵第六十二聯隊一大隊

沖大東島

大東島支隊(一中隊)

南大東島

大東島守備隊(主力)

沖繩本島

展開兵力ノ概要ヲ如シ其兵团部署ハ後述ス

第九師團

第六十四師團

第六十二師團

獨立混成第四旅團

獨立機關銃四大隊

獨立連射砲三大隊、一中隊

戰車第七聯隊(一中隊欠)

軍砲兵隊

第五砲兵團司令部

野戰重砲兵第一聯隊(一大隊欠)

全 第三聯隊

獨立重砲兵百大隊

中迫重砲四、五大隊

輕迫重八、中隊

獨立工兵第十六大隊

軍防空隊

第三野戰高射砲隊司令部

獨立高射砲第三七大隊

野戰高射砲第七十九乃至第十六大隊

高射機關砲百三乃至百五大隊

重砲兵第七聯隊

軍艦司令部

第五艦隊司令部

海上機雷艇第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百大隊

第三四遊擊隊

電信第三六聯隊

才四十九兵站地区隊本部

才二野戰築場隊

才三二軍防衛築城隊

要塞建築勤務二ヶ中隊

特設警備三ヶ中隊

全 正兵三ヶ中隊

野戰作斗二ヶ中隊

独立自動車二ヶ中隊

才三二軍兵器勤務隊

全 野戰兵器廠

全 野戰貨物廠

陸上勤務二ヶ中隊

水上勤務二ヶ中隊

才三七野戰防疫給水部

沖繩陸軍病院

第一船舶輸送司令部沖繩支部

其他省略

右、外才十九航空地区司令官指揮下、飛行場関係部隊、飛行

場大隊四回中隊一隊ナリ

先島集團

才三八師団長ヲ集團長トシ、作戦地域ハ宮古島(含ム)ヨリ南東経

百才二度才十分三且北南トシ、其展開兵力ノ概要尤ノ如シ

宮古島

才三八師団(歩兵才三六聯隊ヲ)

独立混成才五十九旅団

全 才五十旅団

戰車才三七聯隊一中隊

獨立機関銃一中隊

獨立速射砲一中隊

野戰重砲兵才一聯隊一中隊

海上挺進才四、才三十戰隊

全 基地才四、才三十大隊

船舶工兵一中隊

水上勤務一中隊

特設警備二中隊

在外後方諸部隊飛行場關係部隊若干あり

石垣島

獨立混成才四五旅団

特別警備一中隊

後方部隊飛行場關係部隊若干

西表島

重砲兵才八聯隊(後主力ヲ以テ石垣島ニ轉移ス)

才五遊撃隊

兵力展開ニ関スル機密作戰日誌

以上諸島嶼ニ対シ配置兵力ノ決定ハ大本營ノ計画ニ基キ

ノニテ至ル処所要ニ充タル兵力ヲ單ニ気休メ式ニ分散配置セル

嫌アリ蓋シ太平洋諸島嶼ノ現在迄ノ戰例ニ依ルニ一師団以テ

兵力ノ島嶼守備隊ハ一週間以内ニ組織的抵抗力ヲ粉砕

セラレアルガ

大東島ノ準備兵力ノ如キテ予ハ作戰主任參謀トシテカ一期作戰
準備敵狀判斷ノ項ニ記述セル意見ニ基キ過大ナル兵力ヲ支分
スルニ反対セルモ一般ノ空氣ハ之ニ同意セザリキ熟々考フルニ我カ
南西諸島ノ兵力配置ハ太平洋各島嶼基テ同標戰略戰術
上ノ基本的洞察ニ欠クルモ類ル多シ之ガ主因ハ「太平洋作戰ニ於テ
決定戰力ハ航空部隊ナリト現實上理想トテ誤斷セル戰略思想ニ
起因スモノナル」ク更ニ「我カ地上作戰ノ傳統的用兵思想ノ精神力
ヤ駆引的運用ノ効果ヲ過度ニ重視シ科學的檢討ニ欠クル処
大ナリシタメナラン

又大本營ノ南西諸島ニ對シ兵力配置ハ大本營附長少將(後ニ牙
三三二軍參謀長)ノ現地偵察報告ヲ相當參考セル點アリ同少將
ノ意見ハ当初大本營ガ圖上ニ於テ予定セル兵力ヨリ遙カニ強大ナル

兵力ヲ必要トセシガ實際ノ決定兵力ハ概テ同少將ノ意見ニ近キモノナリキ

二捷号作戰

捷号作戰計畫ハ「マリアナ」線失陥後ノ狀勢ニ對處シ大本營ニ於テ
策定セルモノニシテ本州北部ヨリ比島ニ亘ル間敵ノ上陸方面ヲ推定シテ
作戰準備ヲ進メ一度敵ノ上陸スルヤ所在陸軍ノ全力並ニ日本海空軍
ノ主力ヲ以テ之ヲ殲滅セシムル計畫ニシテ敵ガ南西諸島ニ上陸ス
ル場合ヲ捷号作戰ト稱ス

捷三号作戰計畫ハ南西諸島增加兵団ノ來着ニ伴ヒ逐次其ノ
輪廓ヲ明シテ計畫ノ主体ハ航空作戰ニシテ之ヲ概要スルハモ如シ
陸海空軍ノ主力(在本土滿鮮支那台灣比島方面ノ空軍ヲ結
集使用ス機數ハ概テ千五百機ニシテ敵機動艦隊ノ推定保有機數
ニ匹敵ス)ヲ以テ敵ヲソノ上陸前ニ殲滅ス

又聯合艦隊ハ其ノ全方ヲ以テ作戰ニ參加ス
南方基地ヨリ我カ南西諸島ノ決戦場ニ進出スル迄六捷三号
作戰命令ヨリ約一週間ヲ要ス

3. 第三十二軍ハ所在島嶼守備隊ヲ以テ我カ海空軍及聯合
艦隊ノ患破セル敵上陸軍ヲ掃蕩ス
地上兵力決戦予備トシ上海ニ第一師団、台湾ニ機動旅団一ヲ控置ス
三大本營ノ捷三号作戰計画ニ基テ第三十二軍主力ハ沖繩島ニ
於ケル作戰計画ノ概要尤ノ如シ

方針

有力一部ヲ以テ伊江島及本部半島ノ確保ニ勉ムルニ其ノ主力ヲ以テ沖
繩本島半部ヲ占領シ同方面ニ上陸スル敵ニ對シ隨時隨處ニ兵力ヲ機
動集中シ海空軍主力ヲ協同シ敵ヲ上陸海岸地帯ニ於テ裏滅ス

要領

兵団部署 別紙要圖第一其ノ乃至其ノ四ノ如シ

本計畫ハ主眼トスル点尤ノ如シ

1. 敵が沖繩本島島ニ上陸シ場合ハ五六ヶ師団乃至十ヶ師団ヲ使用セシ
2. 右兵力ハ我カ海空軍主力ノ攻害ニ依リ上陸前相當大ナル損害ヲ
受クヘク彼我地上戦力比ハ劣モ不利トナサルハ公算アリ

(軍トシテハ海空軍主力ノ攻害成果ニ對シテハ過去ノ戦例ニ鑑ミ過大
ナル期待ハ奇セカリキ)

3. 敵が海岸地帯狭少ナル地域ニ上陸シ其ノ海空軍ノ確實ナル
掩護下ニ爾後ノ攻害ノ彈撥力ヲ甚弱セントスル若干日(従来ノ戦
例ニ依ル)ノ間ニ我ノ集積ヘテ好機ナリ

4. 我カ有力砲兵(結集シ得ル砲兵カハ十五厘米級以上各種砲)

合計約百門輕砲數百門ナリ)ヲ以テ橋頭堡ニ増集スル敵ノ
兵員資材ニ致命的打撃ヲ加ヘ得シ

5. 各兵団及主力砲兵ノ集中機動ハ相当困難ナレドモ夜間利
用交通網ノ整備並ニ猛訓練ニ依リ又機動後ノ戰鬥ハ該方面ニ
軍前ニ準備セル洞窟陣地並ニ集積庫需品ニ依リ得ヘク
實現行可能ノ成算アリ

6. 夜間機動ノ可能性ヲ信シテハ敵ノ上陸ハ渡洋作戰的
性質ヲ帯ビ之ニ協力スル敵空軍ハ全部艦載機ヲ以テ夜
間ノ燒着艦至難ナルト敵ノ艦砲射撃モ夜間ハ正確ナラズ

ヘント判断ニ基クモノナリ

7. 敵ハ日本軍式掛引キノ妙ヲ科學的正確ヲ期ス戰法ニ出ツルヲ
例トス從テ一時ニ多方面ニ眞面目ニ上陸ヲ決行セザルヲ

我カ軍ノ敵上陸ト對シテ兵力ノ徹底的集中攻果可能算大ナリ
8. 敵ノ大規模ニ上陸準備砲爆並ニ對シテハ我カ兵員資材ヲ
洞窟内ニ收容スルニ依リ其損害ハ極減シ得ル見込アリ

四. 軍作戦準備上航空地上何カ重兵且優先力ノ問題
第一期戰準備間ハ航空ノ優先事矣主義ヲ嚴守スルモ第
二期ニ入り地上兵力ノ大規模増強ニ伴ヒ此問題ハ絶エズ上下者
ノ間ニ紛糾ヲ繼續セリ我カ空軍が大平洋戰特ニ最近於テ
アリナシ戰ニ遺憾ナク其弱体ヲ暴露セル事一軍員ハ
正アル者ノ者シテ認ムルトコトナリ

然ルニ首目的ナル航空至上主義ノ夢容易ニ醒カス航空戦力
ヲ以テ敵上陸ヲ專碎シ得ヘントモ現實遊離ノ謬想宇宙トシテ